

【巻頭言】

心理相談センター年報発刊に当たって

比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター

センター長 塩山二郎

今日の社会の現象を見ていると、単に物やお金があるだけで満たされる時代ではなくなってきたと考えられます。その意味では、今の時代は、近代という時代から次の時代に転換しつつあると言えそうです。この新しい時代をどのようなことばでくくったらいいのでしょうか。

日本臨床心理士会は、「こころの時代」といっています。

私たちの心が満たされるのは、物や金でないとしたら、何でしょうか。うまいことばで言えませんが、「かかわりの中での安定」とでもいうようなものを私たちは求めていると思います。

このところ、不穏な出来事があまりにも多く、社会不安が募っています。受けいれることのできない社会現象に、1人で対応することの不安、恐怖が広がっているように見えます。1人ではなく、誰かとの安定したかかわりを得て、この不穏な社会を乗り切って行きたいと多くの人が願っています。

今流行っているものに、占い、霊視、血液型などがあります。これらの手段を用いて、みんな不安から逃れ、安心を得たいと考えているのではないのでしょうか。そんな心の満たされなさ、分からなさに不安を感じている人たちにこころの専門家を求める動きがあり、それに対応して、ちょうど時代にマッチした形で、臨床心理士が社会に登場しました。

これによって、多くの人々は、さまざまところで、臨床心理士に出会うことができるようになりました。この領域は、それこそ奥が深く、また、間口も広いため、まだまだこれからの学問と言えます。

ここ比治山大学の心理相談センターは、専門家を育てる小さな機関ですが、人間学の奥の深さと広さを臨床心理学的に身につけるところとして、平成16年4月に発足したばかりです。院生も、スタッフも少なく、これから充実させていかねばなりませんので、どうぞ大学内、学外を問わず、皆様方のご教示、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。